

広島県矢野町史 上巻 目次

題字 魚澄惣五郎

編纂委員長 田丸一真

日本学術会員博士 魚澄惣五郎

発刊の辞

序

第一章 自然環境

第一節 地勢

第二節 気候及び地質

第三節 植物の分布及び植生状態

第二章 矢野の曙光

第一節 繩文文化の時代

第二節 弥生文化の時代

第三節 原始時代の交易

第三章 古代の矢野

第一節 古墳文化

第二節 安芸国と郡・郷・里

第三節 古代の交通路

第四章 中世の矢野

第一節 安摩庄内矢野浦	五三
第二節 矢野城と熊谷蓮覚	五九
第三節 野間氏の城下矢野	七〇
第四節 野間氏より毛利氏へ	八〇
第五節 近世の芽生え	八七
第五章 近世の矢野	九四
第一節 村の様相	九四
第一項 村の成立	九四
第二項 村の政治	一〇七
第二節 農業	一二七
第一項 池溝	一二七
第二項 作種・肥料	一三五
第三項 新田開発	一四九
第四項 貢租	一六三
第三節 商工業の発達	一八〇
第一項 町の発生と發展	一八〇
第二項 商工業	一八九

第三項 海関係	一九九
第四節 庶民の生活	二二三
第一項 生活環境	二二三
第二項 階層とその分化	二一九
第五節 芸藩の社倉	一三八
第一項 社倉の発端	一三八
第二項 社倉の発展	一四三
第三項 藩の制度化	一五四
第四項 社倉制度の機構	一六九
第五項 神器の奉納と社倉祭	一七八
第六項 結語	一八六
第六節 文化	
第一項 文芸	一九九
第二項 教育	三五六

(見返しの絵は絵巻物「嚴島以東の八景」のうち矢野の部分で、表見返しは長慶寺の「村寺晩鐘」、裏見返しは尾崎神社の「八幡の秋」である。)